

永遠の戦後のために

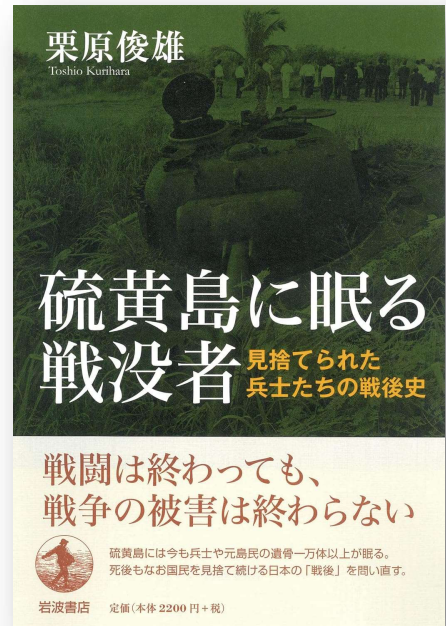
～ 戦後80年 ジャーナリズムの役割とは ～

■ 講師：栗原 俊雄さん（毎日新聞 専門記者）

今年、毎日新聞を含め新聞各紙が「戦後80年」のテーマでさまざまな報道をしている。1945年夏、大日本帝国の敗戦で、戦闘は確かに終わった。しかし戦争被害は終わらなかった。シベリア抑留のように「終戦」から始まった被害もある。広義の戦争は未完なのだ。私は「一年中八月ジャーナリズム」の「常夏記者」として、「未完の戦争」取材し、発信してきた。本講座では「今も続く戦争」の実態をお話したい。また、新聞はかつて戦争に加担した戦争責任がある。であればこそ、二度と戦争に加担してはならない。新しい戦争を防ぐために、新聞に何ができるのか、何をすべきなのかを考えたい。



くりはら・としお 毎日新聞学芸部専門記者。1967年生まれ。早稲田大政治経済学部政治学科卒、同大学院修士課程修了（日本政治史）。1996年毎日新聞入社。横浜支社などを経て2020年専門記者（日本近現代史、戦後補償史）。著書に『シベリア抑留 未完の悲劇』（岩波新書）、『硫黄島に眠る戦没者 見捨てられた兵士たちの戦後史』（岩波書店）他。第3回疋田桂一郎賞（2009年）、第24回平和・協同ジャーナリスト基金賞奨励賞（2018年）、第4回ジャーナリズムアワードZ賞（2023年）をそれぞれ受賞。



■ 2025年4月12日（土） 午前10時～正午 オンライン視聴可

さいたま市・武蔵浦和コミセン（第1集会室、武蔵浦和駅西口前 サウスピア8階）

■ 定員：42人（先着順 準備の都合上、事前にご連絡ください）

■ 参加費：800円

■ 申込 & 問：090-6190-4634（キクチ） FAX 048-798-7634 saitamashiminj@gmail.com



申込みフォーム

埼玉・市民ジャーナリズム講座 埼玉県には古くから独自の歴史と文化があります。埼玉がよりいっそう活性化、発展するためには地域に根ざした多様な「市民に開かれたメディア」の存在と活躍が不可欠です。いま一度、多くのみなさんと、ジャーナリズム、メディアリテラシー、地域文化の育成などの課題を、この「埼玉・市民ジャーナリズム講座」の場を通して共に考え、情報発信していきたいと考えています。この企画は地元・地方紙「埼玉新聞」の紙面協力のもと2014年から取り組んでいます。主催：埼玉・市民ジャーナリズム講座実行委員会（代表：門奈直樹・立教大学名誉教授、構成団体：埼玉新聞サポーターズクラブ／日本機関紙協会埼玉県本部／NPO法人埼玉情報センター／さきたま新聞／NPOくまがや有志）協力：SAITAMA 共同かわら版